

## 北原健二先生追悼講演会のご案内

### 北原健二先生追悼講演会のお知らせ



日本色彩学会色覚研究会では北原健二先生の一周忌にあわせ追悼講演会を開催いたします。多くの皆様に聴講して頂きたい、お知らせいたします。

日時：2009年10月4日(日) 13:00~16:30

場所：私学会館アルカディア



## 北原健二先生追悼講演会

### <開催概要>

主催： 日本色彩学会色覚研究会  
日時： 2009年10月4日(日) 13:00～16:30  
場所： 私学会館(アルカディア市ヶ谷)  
住所：東京都千代田区九段北 4-2-25 代表電話：03-3261-9921  
講演者： 仲泊 聡 氏 (国立障害者リハビリセンター病院)  
林 孝彰 氏 (東京慈恵会医科大学)

日本色彩学会色覚研究会では、北原健二先生の一周年にあわせ、追悼講演会を企画しました。北原健二先生は生前、東京慈恵会医科大学眼科教授として脳における色覚研究と分子生物学における色覚研究、また画家モネの晩年の色覚研究など、多岐に渡ってご活躍されました。昨年10月の訃報に驚かれた方も多いかと思いますが、色覚研究会では、北原先生の色覚に関する業績をできる限りまとめて、今後の色覚研究の礎として参ります。

### <プログラム>

13:10 追悼講演会 主催者挨拶  
13:20～14:20 「色覚の変容について」  
国立障害者リハビリセンター病院 眼科部長 仲泊聡  
14:30～15:30 「先天色覚異常の分子生物学的検討」  
東京慈恵会医科大学 眼科学教室 講師 林孝彰  
15:50 ご遺族挨拶  
16:00～16:30 パネルディスカッション 「北原健二先生を偲んで」

### <参加費>

日本色彩学会会員	4000円
非会員	5000円
学生	3000円

### <参加申込>

氏名、所属、連絡先(住所、電話番号、E-mail)、会員種別を明記の上、下記まで E-mail もしくは Fax にてお申込ください。当日参加は、会場入口にて受付します。

工学院大学情報学部情報デザイン学科  
芸術情報研究室准教授  
市原恭代(色覚研究会主査)  
E-mail: Ichihara@cc.kogakuin.ac.jp  
Fax: 03-3348-3486(情報学部 fax)

## 講演者のご紹介

### 仲泊 聡氏 略歴：

昭和 53 年 3 月 学習院高等科卒業  
昭和 58 年 3 月 学習院大学文学部心理学科卒業  
平成元年 3 月 東京慈恵会医科大学医学部卒業  
平成 7 年 7 月 神奈川県リハビリテーション病院眼科  
平成 15 年 8 月 東京慈恵会医科大学眼科学講座講師  
平成 16 年 1 月 Stanford 大学留学  
平成 19 年 1 月 東京慈恵会医科大学眼科学講座准教授  
平成 20 年 2 月 国立障害者リハビリテーションセンター病院  
第三機能回復訓練部部長

仲泊聡先生は学習院大学の心理学科を卒業後、慈恵医大で学ばれ眼科医になられました。視覚心理学と眼科学の両側から研究をすることができるたいへん得難い人材です。脳の視覚野を研究する際には、刺激の形、色を視覚心理学の面から厳密に作る必要があります。また視覚器の構造と機能についての理解が必要です。色覚を理解するためには視覚器の構造と機能が基礎にあり、次に本題となる色覚理論について、さらに人によって色覚が異なること、すなわち色覚の変容について概略を伺いたいと思っています。

視覚器の構造と機能としては、視覚器を眼球だけではなく視神経や脳を含む視覚システムとして理解しなければなりません。また、眼球の構造についても重要です。

色覚理論としては、ニュートンがプリズムで光を7つに分離して以来、どのようにして色が見えるのかを説明しようとしてきたヤング・ヘルムホルツの3色説とヘーリングの反対色説について述べ、その後になされた生理学的発見とこれらとの対応について紹介して頂きたいと思っております。

色覚の変容としては、先天色覚異常および後天色覚異常の概要について述べ、最後に加齢による色覚の変化について、北原先生も研究しておられた画家クロード・モネの例を紹介して頂きたく存じます。

## 林 孝彰氏 略歴：

東京慈恵会医科大学 大学（医学部 医学科）1991（卒業）  
東京慈恵会医科大学 博士（医学研究科 医学）1998（修了）  
博士（医学）（課程）東京慈恵会医科大学 眼科学  
1997-1998 東京慈恵会医科大学助手  
1998-2001 米国州立ワシントン大学留学  
2001-2003 東京慈恵会医科大学眼科学講座助手  
2003-2007 東京慈恵会医科大学眼科学講座講師  
慈恵医師会研究奨励賞（2006）

林孝彰先生は北原先生の下で、早くより色覚の分子生物学研究に励まれ、この分野で最も先端に立つ日本の研究者の一人です。正常色覚、先天色覚異常の分子生物学的研究や遺伝性網膜変性疾患の遺伝子診断で眼科学、人類遺伝学（個人研究）2001-補助金を受けられています。1990年以降、色覚の遺伝子診断法を確立し、心理物理学検査と遺伝子型関連性を見つけ出したことはたいへん意義のある仕事です。

視物質遺伝子の発現調節機序に関する研究はこの15年で最も進んだ研究分野ですが、その概要について述べて頂ければと思っております。